



安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2021/08/16 改訂日: 2025/03/10 バージョン: 3.0

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	: SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener
製品コード	: 115555712
製品グループ	: 取引製品

会社情報

製造業者

Brands Alliance s.r.o.

831 06

BratislavaPri Šajbách 1

T +421244871700

msds@brandsalliance.eu - www.brandsalliance.eu

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類できない
	可燃性ガス	区分に該当しない
	エアゾール	分類できない
	酸化性ガス	区分に該当しない
	高圧ガス	区分に該当しない
	引火性液体	区分に該当しない
	可燃性固体	区分に該当しない
	自己反応性化学品	分類できない
	自然発火性液体	分類できない
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類できない
	酸化性固体	区分に該当しない
	有機過酸化物	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	分類できない
	急性毒性 (経皮)	分類できない
	急性毒性 (吸入 : 気体)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 蒸気)	区分に該当しない
	急性毒性 (吸入 : 粉じん、ミスト)	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分に該当しない
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分 1A
	生殖毒性	区分 1A
	特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分 2 (中枢神経系, 全身毒性)

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 1 (肝臓)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分 2 (中枢神経系, 血液系)
誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	区分 2
水生環境有害性 短期 (急性)	区分 3
水生環境有害性 長期 (慢性)	分類できない
オゾン層への有害性	分類できない

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)



注意喚起語 (GHS JP)

: 危険

危険有害性 (GHS JP)

: 強い眼刺激 (H319)

発がんのおそれ (H350)

生殖能又は胎児への悪影響のおそれ (H360)

臓器の障害のおそれ (中枢神経系、全身毒性) (H371)

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (肝臓) (H372)

長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (中枢神経系、血液系) (H373)

水生生物に毒性 (H401)

長期継続的影響によって水生生物に有害 (H412)

注意書き (GHS JP)

安全対策

: 使用前に取扱説明書を入手すること。(P201)

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。(P202)

蒸気、ミストを吸入しないこと。(P260)

取扱い後は手をよく洗うこと。(P264)

この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)

環境への放出を避けること。(P273)

保護眼鏡、適切な保護手袋を着用すること。(P280)

: 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)

(P314)

気分が悪いときは、医師の診察／手当てを受けること。(P314)

眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。(P337+P313)

: 施錠して保管すること。(P405)

: 内容物／容器を地方、地域、国内の法令や国際的法令に順守した危険廃棄物又は特別廃棄物の収集場所廃棄すること。(P501)

応急措置

保管

廃棄

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

: 混合物

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

名前	濃度 (%)	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
エタノール; エチルアルコール	11.646	C2H6O	(2)-202	既存化学物質	64-17-5
イソプロピルアルコール臭	1.294	C3H8O	(2)-207	2-(8)-319	67-63-0
ラウレス硫酸ナトリウム	0.0325	-	-	-	68891-38-3
プロピレンギリコール	0.65	C3H8O2	(2)-234	2-(8)-321,2-(8)-323	57-55-6
3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオンアルデヒド(m-BMHCA)	0.9705	C14H20O	(3)-2667	既存化学物質	80-54-6
ヘキシリシンナムアルデヒド	0.404375	C15H20O	(3)-2657	既存化学物質	101-86-0
ドデカン二酸エチレン	0.404375	C14H24O4	(5)-3881	既存化学物質	54982-83-1
サリチル酸ヘキシル	0.404375	C13H18O3	(3)-1585	既存化学物質	6259-76-3
アリルカプロエート	0.0404375	C9H16O2	(2)-759	既存化学物質	123-68-2
ブチルヒドロキシトルエン	0.0113225	C15H24O	(3)-540,(9)-1805	既存化学物質	128-37-0
リモネン	0.48525	C10H16	(3)-2245	3-(4)-187,3-(4)-202,3-(4)-222	5989-27-5
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン	0.9705	C16H26O	(4)-1911	-	54464-57-2

4. 応急措置

応急措置

応急措置 一般

: ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師の診断／手当を受けること。

吸入した場合

: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

: 皮膚は多量の水で洗浄する。

眼に入った場合

: 水で数分間注意深く洗うこと。

: コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

: 眼の刺激が続く場合 : 医師の診断／手当を受けること。

飲み込んだ場合

: 気分が悪いときは医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 眼に入った場合

: 眼刺激。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療

: 対症的に治療すること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤

: 水噴霧、乾燥粉末消火剤、泡消火剤、二酸化炭素

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

使ってはならない消火剤	: データなし
火災時の危険有害性分解生成物	: 有毒な煙を放出する可能性がある。
消火時の保護具	: 適切な保護具を着用して作業する。 自給式呼吸器。 完全防護服。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

非緊急対応者

応急処置	: 出動は、適切な保護装備を身につけた有資格者に限られる。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。
------	--

緊急対応者

保護具	: 適切な保護具を着用して作業する。 詳細については、第 8 項の「ばく露防止及び保護措置」を参照。
-----	---

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項	: 環境への放出を避けること。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
------------	--

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法	: 漏出物を回収すること。
浄化方法	: 吸収剤の中で拡散した液体を吸収する。 本製品が下水、または公共用水に流入した場合も、行政当局に通報する。
その他の情報	: 物質または固体残留物は公認施設で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	: データなし
安全取扱注意事項	: 作業所の十分な換気を確保する。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 作業場における製品の放出を避けるため、または最小限にするため、技術的に必要なあらゆる措置をとる。 取り扱う製品数は必要最小限にし、ばく露使用者の人数を最小限に抑える。 部屋の排気および全般的な換気を確保する。 個人用保護具を着用する。 危険エリア内の床、壁、その他の表面は定期的に清掃しなければならない。 粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。 皮膚、眼との接触を避ける。
接触回避	: データなし
衛生対策	: 作業服と外出着とを分ける。個別に洗う。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 製品取扱い後には必ず手を洗う。
保管	

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

安全な保管条件	: 施錠して保管すること。 換気の良い場所で保管すること。 涼しいところに置くこと。
安全な容器包装材料	: データなし

8. ばく露防止及び保護措置

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	イソプロピルアルコール # Isopropyl alcohol
許容濃度 上限	980 mg/m ³
	400 ppm
規則参照	許容濃度等の勧告 (2021 年度) 産衛誌 63 卷

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。

保護具

呼吸用保護具 : [換気が不十分な場合]呼吸用保護具を着用すること。

手の保護具 : 保護用手袋

タイプ	素材	透過	厚さ (mm)	浸透	規格
使い捨て式手袋	ニトリルゴム (NBR) クロロブレンゴム (CR)	6 (> 480 分)	0,4-0,7		EN ISO 374-1 EN 374-2 EN ISO 374

眼の保護具 : 安全メガネ

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する。

環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	: 液体
外観	: 液体
色	: 乳白色
臭い	: 果実臭
pH	: 5 – 6.5
融点	: 非該当
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
分解温度	: データなし
可燃性	: 非該当
蒸気圧	: データなし
相対密度	: データなし
密度	: データなし
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: データなし
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	: データなし
爆発限界 (vol %)	: データなし

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用、保管、運送の状況下では、当製品は反応しません。
化学的安定性	: 通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 推奨の保存条件及び取扱条件の下では何もありません（第7項参照）。
混触危険物質	: データなし
危険有害な分解生成物	: 通常の使用条件及び保管条件下において、有害な分解生成物は生成されない。

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 分類できない
急性毒性 (経皮)	: 分類できない
急性毒性 (吸入)	: 区分に該当しない(分類対象外) (気体) 区分に該当しない(分類対象外) (蒸気) 分類できない(粉じん、ミスト)
急性毒性 (吸入:蒸気)	
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値=6,200 mg/kg、11,500 mg/kg、17,800 mg/kg、13,700 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、15,010 mg/kg、7,000-11,000 mg/kg (SIDS (2005)) はすべて区分外に該当している。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LDLo= 20,000 mg/kg (SIDS (2005)) に基づき区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50=63,000 ppmV (DFGOT vol.12 (1999))、66,280 ppmV (124.7 mg/L) (SIDS (2005)) のいずれも区分外に該当する。なお、被験物質の濃度は飽和蒸気圧濃度、78,026 ppmV (147.1 mg/L) の 90% [70,223 ppmV (132.4 mg/L)]より低い値であることから、ppmV を単位とする基準値を用いた。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	15010 mg/kg BW 動物 : ラット、動物の性別 : 女性、ガイドライン : OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性) 、95%CL : 14450-15560
LD50 経口	8300 mg/kg BW 動物 : マウス

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50=4,384 mg/kg (EPA Pesticides (1995))、4,396 mg/kg (EHC 103 (1990))、4,710 mg/kg (EHC 103 (1990) 、PATTY (6th, 2012) 、SIDS (2002))、5,000 mg/kg (環境省リスク評価第6巻 (2006))、5,045 mg/kg (環境省リスク評価第6巻 (2006))、5,280 mg/kg (EHC 103 (1990) 、SIDS (2002))、5,300 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、5,480 mg/kg (EHC 103 (1990) 、PATTY (6th, 2012))、5,500 mg/kg ((EHC 103 (1990) 、SIDS (2002))、5,840 mg/kg (PATTY (6th, 2012))、SIDS (2002))に基づき、区分外とした。今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995) 、PATTY (6th, 2012) 、環境省リスク初期評価第6巻 (2006) の情報を追加し、JIS 分類基準に従い、区分5から区分外に変更した。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50=12,870 mg/kg (EHC 103 (1990) , (PATTY (6th, 2012) , (SIDS (2002))に基づき、区分外とした。なお、文献の優先度変更により、今回の調査で入手した PATTY (6th, 2012) のデータを根拠データとした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	ラットの LC50 (4 時間) =68.5 mg/L (27,908 ppmV) (EPA Pesticides (1995))、72.6 mg/L (29,512 ppmV) (EHC 103 (1990) , SIDS (2002))に基づき、区分外とした。なお、LC50 値が飽和蒸気圧濃度 (53,762 ppmV (25°C)) の 90%より低いため、分類にはミストを含まないものとして ppmV を単位とする基準値を適用した。なお、今回の調査で入手した EPA Pesticides (1995) のデータを根拠とした。今回の調査で得たより信頼性の高い情報源から分類した。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	5840 mg/l 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経口	4384 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	16400 mg/kg 出典：ECHA
LD50 経皮	4000 mg/kg
ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経皮 ラット	≥ 2000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性経皮毒性)
プロピレングリコール (57-55-6)	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】 (1) ~ (3) より、区分外とした。【根拠データ】 (1) ラットの LD50 : 22,000 mg/kg (SIDS (2004)) (2) ラットの LD50 : 8,000~46,000 mg/kg (EPA Pesticide (2006)) (3) ラットの LD50 : 21,000~33,700 mg/kg (PATTY (6th, 2012)) 【参考データ等】 (4) マウスの LD50 : 24,900 mg/kg (SIDS (2004)) (5) マウスの LD50 : 23,000~24,900 mg/kg (EPA Pesticide (2006)) (6) マウスの LD50 : 23,900~31,800 mg/kg (PATTY (6th, 2012))

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

プロピレンジリコール (57-55-6)	
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】 (1) より、区分外とした。【根拠データ】 (1) ウサギの LD50 : 20,800 mg/kg (SIDS (2004))
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】 GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	22000 mg/kg BW 動物:ラット
LD50 経皮 ウサギ	≤ 2000 mg/kg BW 動物:ウサギ
3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオノンアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)	
急性毒性 (経口)	【分類根拠】 (1) ~ (3) より、2 件が区分 4、1 件が区分外 (国連 GHS の区分 5) に該当する。件数が多い区分を採用し、区分 4 とした。新しい情報源の利用により区分を変更した。【根拠データ】 (1) ラットの LD50 : 1,390 mg/kg (雌雄) (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)) (2) ラットの LD50 : 3,700 mg/kg (SCCS (2017)) (3) ラットの LD50 : 1,000~2,000 mg/kg (雌雄) (SCCS (2017))
急性毒性 (経皮)	【分類根拠】 (1) ~ (3) より、区分外とした。【根拠データ】 (1) ウサギの LD50 : > 5,000 mg/kg (SCCS (2016))。 (2) ウサギの LD50 : > 4,700 mg/kg (SCCS (2016))。 (3) ラットの LD50 : > 2,000 mg/kg (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018))。
急性毒性 (吸入:気体)	【分類根拠】 GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	【分類根拠】 データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	約 1390 mg/kg BW 動物: ラット, ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性), 95% CL: 1019 - 1867
LD50 経口	1000 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 µl/kg 動物: ラット, ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、3,100 mg/kg (ChemID (Access on January 2017)) との報告に基づき、区分外 (国連分類基準の区分 5) とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50 値として、> 3,000 mg/kg (RTECS (Access on January 2017)) との報告に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	2450 - 3750 mg/kg
LD50 経口	3100 mg/kg
LD50 経皮 ウサギ	> 3000 mg/kg

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ドデカン二酸エチレン (54982-83-1)	
LD50 経口 ラット	4500 mg/kg 出典: ECHA
LD50 経皮 ウサギ	≥ 5000 mg/kg BW 動物: ウサギ、ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性経皮毒性)
サリチル酸ヘキシリ (6259-76-3)	
急性毒性 (経口)	ガイダンスに記載された情報源にデータがなかったため、ECHA の情報を参考データとして記載した。データ不足のため分類できない。なお、ラットの LD50 値として、> 5,000 mg/kg との報告 (ECHA (Access on January. 2016)) がある。
急性毒性 (経皮)	データ不足のため分類できない。なお、ウサギの LD50 値として、> 5,000 mg/kg との報告 (ECHA (Access on January. 2016)) がある。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg BW 動物 : ネズミ
LD50 経皮 ウサギ	> 5000 mg/kg BW 動物 : うさぎ
アリルカプロエート (123-68-2)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、218 mg/kg、276 mg/kg (JECFA FAS 28 (1991)) との 2 件の報告に基づき、区分 3 とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギの LD50 値として、300 mg/kg、820 mg/kg (JECFA FAS 28 (1991)) との 2 件の報告に基づき、区分 3 とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	218 mg/kg 出典 : NLM、THOMSON
LD50 経口	280 mg/kg BW 動物: モルモット, ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性), 95% CL: 246 - 319
LD50 経皮 ウサギ	820 mg/kg BW 動物 : ウサギ、ガイドライン : OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性) 、95%CL : 700-940
LD50 経皮	300 mg/kg
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
急性毒性 (経口)	ラット LD50 値について 5 件の報告がある (890 mg/kg (環境省リスク評価第 6 卷 (2008)) 、 1,700-1,900 mg/kg (DFGOT vol.23 (2007)) 、 2,450 mg/kg (DFGOT vol.23 (2007)) 、 > 2,930 mg/kg (SIDS (2002)) 、 > 10,000 mg/kg (SIDS (2002)) が、890 mg/kg (環境省リスク評価第 6 卷 (2008)) の報告は詳細不明であるため不採用とし、4 件中の 3 件が該当する区分外とした。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
急性毒性 (経皮)	ラット LD50 値が > 2,000 mg/kg であり、2,000 mg/kg の投与で死亡、毒性症状がない (SIDS (2002)) との報告より、区分外とした。JIS 分類基準に従い、区分 5 から区分外に変更した。
急性毒性 (吸入: 気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入: 蒸気)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	> 2930 mg/kg BW 動物: ラット, ガイドライン: OECD ガイドライン 401 (急性経口毒性)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット, ガイドライン: OECD ガイドライン 402 (急性皮膚毒性)
LD50 経皮 ウサギ	> 2000 mg/kg Source: ECHA
LC50 吸入 - ラット (粉じん / ミスト)	> 2 mg/l
リモネン (5989-27-5)	
急性毒性 (経口)	ラットにおける LD50 値 雄 4.4g/kg, 雌 5.1g/kg (CICADs (No. 5, 1998)) に基づき、JIS 分類基準の区分外(国連分類基準の区分 5) とした。
急性毒性 (経皮)	ウサギにおける LD50 値 > 5 g/kg (DFGOT (vol.1, 1991)) に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入: 気体)	GHS の定義による液体である。
急性毒性 (吸入: 蒸気)	データなし。
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	データなし。
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg BW 動物: ラット、動物の性別: 女性、ガイドライン: OECD ガイドライン 423 (急性経口毒性-急性毒性クラス法)
LD50 経皮 ウサギ	> 5000 mg/kg 出典: 国立医学図書館
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、> 5,000 mg/kg (NTP TOX92 (2016)) との記載に基づき、区分外とした。
急性毒性 (経皮)	ラットの LD50 値として、> 5,000 mg/kg (NTP TOX92 (2016)) との記載に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入: 気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入: 蒸気)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入: 粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg BW 動物: ネズミ
LD50 経皮 ウサギ	> 5000 mg/kg BW 動物: うさぎ

皮膚腐食性／刺激性 : 区分に該当しない

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener	
pH	5 – 6.5

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギに 4 時間ばく露した試験 (OECD TG 404) において、適用 1 および 24 時間後の紅斑の平均スコアが 1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て 0.0 であり、「刺激性なし」の評価 SIDS (2005) に基づき、区分外とした。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
皮膚腐食性／刺激性	EHC 103 (1990) 、PATTY (6th, 2012) 、ECETOC TR66 (1995) のウサギ皮膚刺激性試験では、刺激性なし又は軽度の刺激性の報告があるが、EHC 103 (1990) のヒトでのボランティア及びアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用了試験では刺激性を示さないとの報告から、軽微ないし軽度の刺激性があると考えられ、JIS 分類基準の区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。
プロピレンジリコール (57-55-6)	
皮膚腐食性／刺激性	【分類根拠】 (1) ~ (5) より、区分外とした。【根拠データ】 (1) ヒトの皮膚に本物質原液を 48 時間適用したところ、刺激性は見られなかったとの報告がある (SIDS (2004))。 (2) ヒト 6 人の皮膚に本物質原液を 2 時間適用したところ、刺激性は見られなかったとの報告がある (SIDS (2004))。 (3) ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG404) で、刺激性は見られなかったとの報告がある (SIDS (2004))。 (4) ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (ドレイズ変法) で、刺激性はみられなかったとの報告がある (SIDS (2004))。 (5) ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (EPA OPPTS 870.2400) で、本物質は非刺激性 (non irritant) との報告がある (EPA Pesticide RED (2006))。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオナルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)

皮膚腐食性／刺激性	<p>【分類根拠】 (1)、(2) より、ガイダンスに従い区分 2とした。 (3) は試験法が OECD TG に沿っているわけではないが、区分 2 の判断を支持する結果である。 【根拠データ】 (1) ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG404、GLP 準拠、n=3) で本物質原液を 4 時間半閉塞適用したところ、紅斑及び浮腫に対する 24~72 時間後の平均スコアは 1.7/2.0/2.3 及び 2.0/2.7/3.0 であり、7 日後に見られた紅斑及び浮腫の平均スコアは 1.7 及び 1.3 であった (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)、REACH 登録情報 (Accessed Dec. 2018)、ECETOC TR66 (1995))。また、PII (一次刺激指数) は 4.56 だった (ECETOC TR66 (1995))。 (2) ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (OECD TG404 相当、GLP 準拠、n=4) で本物質原液を 4 時間半閉塞適用したところ、紅斑及び浮腫に対する 24~72 時間後の平均スコアは 1.7/2.0/2.0/2.0 及び 1.0/1.7/1.7/2.3 で、7 日後には全例で落屑が観察されたとの報告がある (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)、ECETOC TR66 (1995))。また、PII (一次刺激指数) は 3.58 だった (ECETOC TR66 (1995))。 【参考データ等】 (3) ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (FDA Register 38. No. 187, Para. 1500.41, S27029, n=2 (5 分、2 時間適用)、3 (24 時間適用)、雄 (2) 雌 (1)) で本物質原液を閉塞適用したところ、紅斑及び浮腫に対する 24~72 時間後の平均スコアは 5 分適用が 2.0 及び 1.0、2 時間適用が 1.0、2.0 及び 1.0、0.5 が見られ、前者は 8 日後に回復したが、後者は 1/2 で紅斑が回復せず、また、どちらの用量群も 8 日後に全例で皮膚の落屑が見られたとの報告がある (REACH 登録情報 (Accessed Dec. 2018))。 (4) ボランティア 25 人 (男性 3 人、女性 22 人) に対するパッチテストにおいて、本物質溶液 (75%エタノール/25%タル酸ジエチル) を 0/10/15/20/25% の濃度でそれぞれ 24 時間閉塞適用したところ、10、20% 溶液で数人に淡い紅斑が見られたが最高濃度では皮膚刺激性は見られず、濃度依存性はなかったとの報告がある (SCCS (2016))。</p>
-----------	---

ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)

皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた皮膚一次刺激性試験 (OECD TG 404、3 試験) では、適用 24~72 時間後に紅斑 (グレード 1~2) と浮腫 (グレード 1~3) が観察され、7 日後に落屑が認められた。3 試験の一次刺激率 (PII) は、4.0、4.0 及び 2.58 であった (ECETOC TR66 (1995)) ことから、区分 2 とした。
-----------	--

サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)

皮膚腐食性／刺激性	データ不足のため分類できない。なお、ECHA 情報として、ウサギを用いた皮膚刺激性試験 (EEC Directive 79/832) において、本物質 (原液) を 4 時間、半閉塞適用した結果、浮腫及び紅斑がみられたことから刺激性を有すると報告されている (ECHA (Access on January 2016))。
-----------	---

アリルカプロエート (123-68-2)

皮膚腐食性／刺激性	データ不足のため分類できない。
-----------	-----------------

ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)

皮膚腐食性／刺激性	ウサギの閉塞塗布試験で非常に軽度の刺激との記載があり、またヒトに軽度の刺激あり (SIDS (2002)) との記載がある。List 3 の CERI ハザードデータ集 (1997) を削除し、以上の情報に基づき、JIS 分類基準の区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。
-----------	---

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

リモネン (5989-27-5)	
皮膚腐食性／刺激性	ヒト(パッチテスト)において、刺激性が 72 時間継続し、経皮暴露(2 時間)によって火傷、そう痒、痛み、紫斑発疹がみられた(CICADs (No.5, 1998))。ウサギの試験(OECD TG 404)において、皮膚一次刺激指数が 8 ランク中 3.5 位を示した。以上の結果および EU 分類で R38(区分 2 または 3 相当)である(EU-AnnexI, access on 12. 2008)ことから、区分 2 とした。
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
皮膚腐食性／刺激性	データ不足のため分類できない。なお、マウスの耳に 0.5~50% 液体を塗布した結果、皮膚刺激性が認められた (NTP TOX92 (2016))。一方、ヒトではエタノールとフタル酸ジエチルの 1:3 及び 3:1 混合溶媒に本物質を 20~75% 溶解してボランティアの背部に適用した皮膚刺激性試験では、刺激性は認められなかつた (RIFM (2004))。いずれも詳細が不明なことから採用しなかった。
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	: 強い眼刺激
SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener	
pH	5 – 6.5
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた 2 つの Draize 試験 (OECD TG 405) において、中等度の刺激性と評価されている (SIDS (2005))。このうち、1 つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第 1 日の平均スコアが角膜混濁で 1 以上、結膜発赤で 2 以上であり、かつほとんどの所見が 7 日以内に回復した (ECETOC TR 48 (2) (1998)) ことから、区分 2B に分類した。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	EHC (1990)、SIDS (2002)、PATTY (6th, 2012)、ECETOC TR48 (1998) のウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていないことから、区分 2 とした。
プロピレングリコール (57-55-6)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	【分類根拠】 (1)、(2) より、区分外とした。なお、(3) は IPCS の記述であり、(4)、(5) はデータの詳細が不明であることから、分類判断に用いることはないと判断した。【根拠データ】 (1) ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG405) 2 件で、本物質原液の適用により刺激性は見られなかつたとの報告がある (SIDS (2004))。(2) ウサギを用いた眼刺激性試験 (EPA OPPTS 870.2400) で、本物質は非刺激性 (non irritant) との報告がある (EPA Pesticide RED (2006))。【参考データ等】 (3) ヒトの眼を刺激し、眼に入ると発赤、痛みを生じる (環境省リスク評価第 6 卷：暫定的有害性評価シート (2008))。(4) ヒトで眼刺激性の報告がある (IPCS PIM 443 (Accessed Oct. 2018))。(5) 本物質の職業ばく露による眼の傷害の報告はないが、一過性の刺すような痛み、眼瞼痙攣、流涙を生じる可能性があるとの報告がある (PATTY (6th, 2012))。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオノアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)

眼に対する重篤な損傷性／刺激性	<p>【分類根拠】 (1) ~ (3) より、7日以内に回復するとの情報を踏まえて区分 2B とした。新たな情報源の利用により、旧分類から区分を変更した。【根拠データ】 (1) ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG405、GLP 準拠、n=3) で本物質 10 及び 30% 溶液 (溶媒: フタル酸ジエチル) を適用したところ、結膜にスコア 1 の発赤、浮腫、分泌物が見られたが 7 日以内に回復したとの報告がある (SCCS (2016)、NICNAS IMP (Accessed Dec. 2018))。</p> <p>(2) ウサギを用いた眼刺激性試験 (FDA Register 38. No. 187, Para. 1500.41, S27029, n=3) で本物質原液を適用したところ、24, 48, 72 時間後の結膜発赤の平均スコアは 0.5/0.5/1.0 であり、角膜混濁、虹彩炎、結膜浮腫は見られなかったとの報告がある (NICNAS IMP (Accessed Dec. 2018)、REACH 登録情報 (Accessed Dec. 2018))。</p> <p>(3) ウサギを用いた眼刺激性試験 (n=6) で本物質 8% 溶液 (溶媒: プロピレンギリコール) を適用したところ、結膜には 4/6 例でごく軽度～重度の浮腫、3/6 例に軽度～中等度の分泌物が見られたが 4 日以内に回復、角膜への影響は 72 時間後まで見られたがその後回復、虹彩への影響も見られたが 7 日以内に回復したとの報告がある (SCCS (2016))。</p>
-----------------	---

ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)

眼に対する重篤な損傷性／刺激性	データ不足のため分類できない。
-----------------	-----------------

サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)

眼に対する重篤な損傷性／刺激性	データ不足のため分類できない。なお、ECHA 情報として、ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG405) において、本物質 (原液) を適用した結果、軽度の刺激症状がみられたが回復性であったことから刺激性なしと報告されている (ECHA (Access on January 2016))。
-----------------	--

アリルカプロエート (123-68-2)

眼に対する重篤な損傷性／刺激性	データ不足のため分類できない。
-----------------	-----------------

ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)

眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いたドレイズ試験において、本物質 100 mg を適用 24 時間後で、結膜に軽度の炎症が 6/6 例にみられたが、72 時間後には完全に回復した (SIDS (2002)) との記載より区分 2B とした。
-----------------	--

リモネン (5989-27-5)

眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギにおいて、刺激性が認められている(CICADs (no.5, 1998))が、このデータだけでは区分が特定できないことから、データ不足のため分類できないとした。
-----------------	---

テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)

眼に対する重篤な損傷性／刺激性	データ不足のため分類できない。
-----------------	-----------------

呼吸器感作性 : 分類できない

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。なお、アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられている。一方、軽度の喘息患者 2人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されている（DFGOT vol.12 vol.12 (1999)）が、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている（DFGOT vol.12 vol.12 (1999)）。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
プロピレンジコール (57-55-6)	
呼吸器感作性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオニアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)	
呼吸器感作性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
アリルカプロエート (123-68-2)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
リモネン (5989-27-5)	
呼吸器感作性	データなし。
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。
皮膚感作性	： 分類できない
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
皮膚感作性	ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある（DFGOT vol.12 vol.12 (1999)）との記述があるが、「ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性がみられる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性はみられないことにより、エタノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」（SIDS (2005)、DFGOT vol.12 vol.12 (1999)）の記述に基づきデータ不足のため分類できないとした。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

プロピレンギリコール (57-55-6)

皮膚感作性

【分類根拠】 (1) ~ (4) より、区分外とした。【根拠データ】 (1) ヒトに対する皮膚パッチテスト (n=104、GLP) で、本物質 50%溶液の半閉塞/閉塞適用による感作誘導後、50%溶液の半閉塞/閉塞適用で感作を誘発させたところ、それぞれ陽性反応は示さなかつとの報告がある (SIDS (2004))。 (2) ヒトに対する皮膚パッチテスト (ドレイズ変法、n=204) で、本物質 12%溶液の閉塞適用による感作誘導後、12%溶液の閉塞適用で感作を誘発させたところ、陽性反応は示さなかつとの報告がある (SIDS (2004))。 (3) モルモットを用いた Maximization 試験 (GPMT) 7 件のうち 1 試験のみ弱い陽性が見られたが、他の 6 試験は全て陰性だったとの報告がある (J. Am. Coll. Toxicol., 13 (1994))。 (4) マウスを用いた皮膚感作性試験 (OECD TG429、LLNA 法、n=4) において本物質 50%溶液で Stimulation Index (SI 値) は 1.2、本物質原体で SI 値 1.6 だったとの報告がある (REACH 登録情報 (Accessed Oct. 2018))。

3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオンアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)

皮膚感作性

【分類根拠】 (1) ~ (6) より、区分 1 とした。なお、SCCS では、本物質は溶媒等の試験条件によって陽性反応に影響を与えるが、低頻度ではあるが症例報告で陽性が見られることから、(7) のように判断している。ヒト及び動物試験における陽性頻度や重篤性の情報を踏まえて細区分は行わなかった。 【根拠データ】 (1) ボランティアに対する反復パッチテスト (HRIPT 法) について複数の症例報告があり、最大 25%濃度で適用した試験も含まれているが、ほとんどが陰性の結果であったとの報告がある。それらの多くがエタノールとフタル酸ジエチルの混合溶媒を用いた試験であり、一方でワセリンを混合溶液とした HRIPT 試験では 5%濃度で 9/25 例で陽性反応が見られたとの報告がある (SCCS (2016))。 (2) 複数の皮膚科の患者に対するパッチテストでは、本物質に対し陽性反応を示し (11~100 例/施設)、本物質溶液 5%の陽性率は 0~1.2% (多くは 0.6%未満) だったとの報告がある (SCCS (2016))。 (3) マウスを用いた 4 件の LLNA 試験 (OECD TG443、GLP 準拠) において陽性の結果が得られているが、EC3 値は溶媒によって 2.94% (エタノール) ~18.7% (アセトン/オリーブ油 (4:1)) まで変動しており、エタノール溶媒の試験 (濃度は 10,25,50,100%) では全濃度区で SI 値 ≥ 3 が得られ (3.3, 9.8, 24.3, 38.5)、濃度依存性も見られるとの報告がある (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018))。 (4) モルモットを用いた Maximization 試験 (OECD TG406、GLP 準拠、n=5/性) で、本物質溶液 (アセトン/PEG400) に対して陽性を示したとの報告がある (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018))。 (5) モルモットを用いた Buehler 試験 (OECD TG406、GLP 準拠、n=10) で本物質溶液 (エタノール) に対して弱い陽性を示したとの報告がある (SCCS (2016))。 (6) モルモットを用いた Kao 法 (n=10/群) で本物質 30%溶液 (エタノール) 及び原液を適用したところ、前者には 5/10 例で陽性、後者には 6/10 例で陽性を示したとの報告がある (SCCS (2016))。【参考データ等】 (7) 2012 年に SCCS は本物質に対して「ヒトに対して接触アレルゲンとして作用する (established contact allergen in humans)」との見解を示した (SCCS (2016)、SCCS (2017))。 (8) モルモットを用いた Maximization 試験 (OECD TG406、GLP 準拠、n=20) で、本物質溶液 (エタノール) に対して陽性を示さなかつとの報告がある (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018))。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)	
皮膚感作性	モルモットの皮膚感作性試験 (マキシマイゼーション法、ビューラー法) 及びマウスの局所リンパ節試験 (LLNA 法)において、いずれも陽性であり、また、本物質はヒトパッチテストにおいて診断のための陽性対照物質として用いられており、本物質はヒト及び動物に対して皮膚感作性を有すると結論されていることから (ECETOC TR 77 (1999))、区分 1 とした。
サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、マウスを用いた LLNA 試験 (OECD TG429)において、本物質 (10% 及び 25%) 適用により感作性が認められたとの報告や、ボランティア 104 人に対する本物質 (30%) のパッチテストの結果、感作性はみられなかった (ECHA (Access on January 2016)) との報告がある。
アリルカプロエート (123-68-2)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。SIDS (2002) と IUCLID (2000) に、モルモットを用いた試験で陰性とのデータがあるが、SIDS (2002) は限定的なデータとしている。また、ヒトに関しては、SIDS (2002) では、多数の作業者や患者に対して実施されたパッチテストにおいてすべて陰性であったとの結果があるが、本物質が完全に感作性なしとは判断できないとしている。List 3 の CERI ハザードデータ集 (1997) を削除し、入手した情報を再確認した結果に基づき、分類できないとした。
リモネン (5989-27-5)	
皮膚感作性	ヒト(パッチテスト)において、10-15 分で感作性がみられ (CICADs(No.5,1998))、モルモットによる Maximization test において感作性が認められた(CICADs(No.5,1998))。以上の結果および EU 分類において R43(区分 1相当)(EU-Annex I, accession 12.2008)、DFG にて Sh(MAK/BAT(2007))であることから、区分 1 とした。
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
皮膚感作性	ヒトにおいて、本物質の 2.5~40% 溶液を用いたパッチテストでは、複数の試験で陰性の結果が報告されているが、皮膚炎患者を対象としたパッチテストでは、少数例に陽性反応が認められている (Scognamiglio et al. (2013))。また、マウスを用いた皮膚感作性試験 (LLNA 法、2 試験) では陽性であったが、マウスの耳介腫脹試験 (詳細不明) 及びマウスを用いた皮膚感作性試験 (LLNA 法) では陰性であった (NTP (2010)、Scognamiglio et al (2013))。以上のように相反する結果が複数報告されており、分類できないとした。

生殖細胞変異原性 : 分類できない

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
生殖細胞変異原性	in vivo、in vitro の陰性結果あるいは陰性評価がされており、分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できないため、「分類できない」とした。すなわち、マウスおよびラットを用いた経口投与（マウスの場合はさらに腹腔内投与）による優性致死試験において陽性結果（SIDS (2005)、IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)、PATTY (6th, 2012)）があるものの、試験条件の不十分性や試験結果の誤りなどが認められ信頼性は低い又は信頼性なしと評価している（SIDS (2005)、DFGOT vol.12 (1999)）。また、ラット、マウスの骨髓小核試験で陰性、ラット骨髓及び末梢血リンパ球の染色体異常試験で陰性（SIDS (2005)、PATTY (6th, 2012)、IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)）、チャイニーズハムスターの骨髓染色体異常試験で陰性（SIDS (2005)）である。また、マウス精子細胞の小核試験、精母細胞の染色体異常試験、ラット精原細胞の染色体異常試験、チャイニーズハムスター精原細胞の染色体異常試験（異数性）で陰性である（IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)）。なお、陽性の報告として、ラット、マウスの姉妹染色分体交換試験がある（DFGOT vol.12 (1999)、PATTY (6th, 2012)）が、SIDS (2005) などでは評価されていない。in vitro 変異原性試験として、エームス試験、哺乳類培養細胞を用いるマウスリンフォーマ試験及び小核試験はすべて陰性と評価されており（PATTY (6th, 2012)、IARC (2010)、DFGOT vol.12 (1999)、SIDS (2005)、NTP DB (Access on June 2013)）、in vitro 染色体異常試験でも CHO 細胞を用いた試験 1 件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった（SIDS (2005)、PATTY (6th, 2012)、IARC (2010)）。なお、この染色体異常の陽性結果は著しく高い用量で生じており、高浸透圧のような非特異的影響に起因した染色体傷害の可能性があると記載（SIDS (2005)）されている。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。すなわち、in vivo では、体細胞変異原性試験であるマウスの骨髓細胞を用いる小核試験（SIDS (2002)）、ラットの骨髓細胞を用いる染色体異常試験（EHC 103 (1990)）で陰性の結果が報告されている。in vitro では、染色体異常試験のデータはなく、細菌を用いる復帰突然変異試験（SIDS (2002)、EHC 103 (1990)）、哺乳類培養細胞を用いる hgprt 遺伝子突然変異試験（SIDS (2002)）で陰性である。なお、IARC 71 (1999)、環境省リスク評価第 6 卷 (2008) では変異原性なしと記載している。分類ガイダンスの改訂により区分を変更した。
プロピレンジリコール (57-55-6)	
生殖細胞変異原性	【分類根拠】（1）～（3）より、ガイダンスに従い分類できないとした。 【根拠データ】（1）ラットの優性致死試験（単回又は 5 日間経口投与）は陰性であった（SIDS (2004)）。（2）ラットの骨髓を用いた in vivo 染色体異常試験（単回又は 5 日間経口投与）では陰性であった（SIDS (2004)）。（3）マウスの骨髓を用いた in vivo 小核試験（単回腹腔内投与）では陰性であった（SIDS (2004)）。【参考データ等】（4）細菌を用いた 2 件の復帰突然変異試験は陰性であった（SIDS (2004)）。（5）ヒトリンパ球を用いた in vitro 染色体異常試験では陰性であった（SIDS (2004)）。（6）哺乳類培養細胞（CHO）を用いた in vitro 染色体異常試験では陽性（S9-）の結果が得られたが、細胞毒性が発現する高濃度での結果であった（SIDS (2004)）。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオナルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)

生殖細胞変異原性	<p>【分類根拠】 In vivo のデータは（1）のみで、データ不足のため分類できない。【根拠データ】（1）In vivo ではマウスの骨髄を用いた小核試験（OECD TG474, GLP）において、雄の最高用量群で 48 時間後に小核を有する多染性赤血球比率の有意な増加がみられたが、背景データの範囲内の変動であり、結論は導けないとされた（SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)）。（2）In vitro では、哺乳類培養細胞を用いた染色体異常試験で陽性的結果が得られているが、細菌を用いた復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞を用いた遺伝子変異試験は陰性であった（SCCS (2016, 2017)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)）。</p>
----------	---

ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)

生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
----------	-----------------

サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)

生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。なお、ECHA 情報として、in vitro では細菌の復帰突然変異試験で陰性 (ECHA (Access on January 2016)) のデータがある。
----------	---

アリルカプロエート (123-68-2)

生殖細胞変異原性	データ不足のため分類できない。
----------	-----------------

ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)

生殖細胞変異原性	分類ガイドンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。In vivo では、マウスの相互転座試験、マウス及びラットの優性致死試験、マウスの特定座位試験、マウス骨髄細胞の小核試験、マウス及びラットの骨髄細胞の染色体異常試験でいずれも陰性（環境省リスク評価第 6 卷（2008）、SIDS（2002））の報告がある。In vitro では、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験は細胞毒性濃度において陽性知見が認められるものの、細菌の復帰突然変異試験では陰性であり、また、in vitro 染色体異常試験では一部陽性知見が示されている（環境省リスク評価第 6 卷（2008）、SIDS（2002）、ACGIH（7th, 2001）、NTP DB（2013））。
----------	--

リモネン (5989-27-5)

生殖細胞変異原性	体細胞 in vivo 変異原性試験（マウススポット試験）で陰性である(IARC (vol.73, 1999))ことから区分外とした。in vitro 試験では、マウスリンフォーマ試験、CHO 細胞を用いた染色体異常試験、エームス試験にて陰性結果を示した(CICADs (No.5, 1998)), IARC (vol.73, 1999))。
----------	---

テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)

生殖細胞変異原性	In vivo では、雌雄のラット、マウスの末梢血赤血球小核試験で、ラットでは陰性、マウスでは雄で陰性、雌で equivocal (不明確な結果) であった (NTP DB (Access on October 2016))。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験で陰性である (NTP TOX 92 (2016))。以上より、ガイドンスに従い分類できないとした。
----------	--

発がん性 : 発がんのおそれ

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
発がん性	エタノールは ACGIH で A3 に分類されている (ACGIH (7th, 2012))。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分 1A に分類する。
IARC グループ	ヒトに対して発がん性がある
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
発がん性	IARC 71 (1999) でグループ 3、ACGIH (7th, 2001) で A4 に分類されていることから、分類できないとした。分類ガイドラインの改訂により区分を変更した。
IARC グループ	分類できない
プロピレンジリコール (57-55-6)	
発がん性	【分類根拠】発がん性に関して、利用可能なヒトを対象とした報告はない。利用可能な動物試験結果は（1）の動物種 1 種に限られ、データ不足のため分類できない。【根拠データ】（1）ラット（30 匹/性/群）の 2 年間混餌投与による発がん性試験（雄：200～1,790 mg/kg/day、雌：300～2,100 mg/kg/day）では腫瘍発生の増加はみられなかった（SIDS (2004)）。（2）国内外の分類機関による既存分類はない。【参考データ等】（3）イヌ（5 匹/性/群）を用いた 2 年間混餌投与（2,000、5,000 mg/kg/day）による慢性毒性試験で、腫瘍発生頻度に変化はみられなかった（SIDS (2004)）。（4）雌マウス（例数不明）に一生涯経皮投与（2～21 mg/匹/day）した試験で、皮膚腫瘍の増加はみられていない（SIDS (2004)）。（5）ラットの耳介に 10～14 カ月間塗布（用量不明）したが、皮膚腫瘍の発生増加はみられなかった（SIDS (2004)）。
3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオնアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)	
発がん性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)	
発がん性	データ不足のため分類できない。
サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)	
発がん性	データ不足のため分類できない。
アリルカプロエート (123-68-2)	
発がん性	データ不足のため分類できない。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
発がん性	IARC でグループ 3 (IARC 40 (1987))、ACGIH で A4 (ACGIH (1995)) に分類されていることから、分類できないとした。ガイドライン改訂により分類区分を変更した。
IARC グループ	分類できない
NOAEL (慢性、経口、動物/オス、2 年)	25 mg/kg BW 動物: ラット、動物の性別: 雄、結果の備考: その他: 影響の種類: 毒性 (移行情報)

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

リモネン (5989-27-5)	
発がん性	IARC で Group3(IARC Vol. 73, 1999)に分類されており、ラット(F344/N)を用いた強制経口投与、生涯試験において、雄でのみ尿細管腺腫がみられ、雌に発がん性は認められなかった(CICADs No.5, 1998)。マウス(B6C3F1)を用いた強制経口投与、生涯試験(IARC vol.73, 1999)において、発がん性は認められなかった。ラット雄にみられた所見は、種および性依存性のものであると記述がある(CICADs No. 5, 1998)。したがって、ヒトに対する発がん性は疑われないことから区分外とした。
IARC グループ	分類できない
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
発がん性	データ不足のため分類できない。
生殖毒性	: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
生殖毒性	ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動及び認知機能障害が含まれる (PATTY (6th, 2012))。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分 1A とした。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠期に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、動物実験でも妊娠ラットに経口投与した試験で奇形の発生がみられている。
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
生殖毒性	ラットの経口投与による 2 世代試験では生殖発生毒性は認められなかったとの記述がある (IARC 71 (1999) 、EHC 103 (1990)) が、このデータの詳細は明らかではない。比較的新しいラットの経口投与による 2 世代試験では親動物に一般毒性影響（肝臓及び腎臓の組織変化を伴う重量増加）が認められる用量で、雄親動物に交尾率の低下、児動物には生後に体重の低値及び死亡率の増加が見られたと記述されている (PATTY (6th, 2012)) 、SIDS (2002))。雄親動物における交尾率の低下と新生児への有害影響は、親動物への一般毒性による二次的・非特異的な影響とは考えがたい。また、妊娠雌ラットに吸入暴露した発生毒性試験において、胎児には軽微な影響（体重低値、骨格変異）が見られたのみで、奇形の発生はなかったが、母動物毒性（不安定歩行、嗜眠、摂餌量及び体重増加量減少）がみられる用量で着床不全、全胚吸収など生殖毒性影響がみられている (PATTY (6th, 2012))。以上の結果、分類ガイドラインに従い区分 2 に分類した。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

プロピレンジリコール (57-55-6)

生殖毒性

【分類根拠】（1）の経口投与による繁殖試験や、（2）、（3）の妊娠動物を用いた発生毒性試験では生殖発生毒性がみられなかったことから、分類できないとした。【根拠データ】（1）マウスを用いた飲水投与による連続交配試験において、10, 100 mg/kg/day を最長 98 日間投与したが、F0 及び F1 親動物に投与に関連した生殖影響はみられず、F1 及び F2 児動物に投与に関連した生存率、成長への影響はみられなかった（SIDS (2004)、環境リスク初期評価第 6 卷：暫定的有害性評価シート (2008)）。（2）妊娠ラットの器官形成期（妊娠 6～15 日）に強制経口投与した発生毒性試験では、1,600 mg/kg/day までの用量で母動物、胎児ともに有害影響はみられなかった（SIDS (2004)、環境リスク初期第 6 卷：暫定的有害性評価シート (2008)）。（3）妊娠ウサギの器官形成期（妊娠 6～18 日）に強制経口投与した発生毒性試験では、12～267 mg/kg/day 群で母動物に死亡例（用量相関なし）がみられたが、最高用量の 1,230 mg/kg/day まで、胎児に発生影響はみられなかった（SIDS (2004)、環境リスク初期第 6 卷：暫定的有害性評価シート (2008)）。【参考データ等】（4）妊娠マウスの器官形成期（妊娠 6～15 日）に強制経口投与した発生毒性試験では、1,600 mg/kg/day までの用量で母動物、胎児ともに有害影響はみられなかった（SIDS (2004)、環境省リスク評価第 6 卷：暫定的有害性評価シート (2008)）。（5）妊娠ラットの器官形成期（妊娠 6～15 日）に吸入ばく露した発生毒性試験では、300 ppm までの用量で母動物、胎児ともに有害影響はみられなかった（ATSDR addendum (2008)）。（6）妊娠ウサギの器官形成期（妊娠 7～19 日）に吸入ばく露した発生毒性試験では、300 ppm までの用量で母動物、胎児ともに有害影響はみられなかった（ATSDR addendum (2008)）。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオナルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)

生殖毒性	<p>【分類根拠】 (1) から、F0 親動物に軽微な症状（血清コリンエステラーゼ増加、肝臓相対重量の増加、体重増加量の減少）が生じた用量で、雄動物の生殖器への有害影響と繁殖障害（着床後胚吸収率増加、生存児得られず）が認められた。 (2)、(3) のデータからも出生児や胎児に発生・発達影響がみられる。以上、1世代試験により発現した生殖影響と精巣毒性に基づき、区分 1Bとした。新しい情報源の利用により区分を変更した。【根拠データ】 (1) ラットを用いた混餌投与による1世代試験において、1,700 ppm 以上の投与により F0 親動物の体重増加抑制、肝臓影響（相対重量増加、血清 AST・ALP 活性の増加など）がみられており、これらの群では生存児が得られなかった。また 1,700 ppm 以上の投与群には、雄性生殖器への影響として精巣のび慢性変性、精巣上体における無精子症が、最高用量の 3,400 ppm 投与群には更にライディッヒ細胞の過形成が認められている。低用量 2 群 (400, 800 ppm) については、F0 親動物には血清コリンエステラーゼ増加、肝臓相対重量の増加、体重増加量の減少などが、F1 児動物には着床後胚吸収率の増加、生時および離乳時体重の低値、体重増加量の減少がみられ、発生および生後の成長への悪影響が認められている (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)、CLP Report (2017))。 (2) ラットを用いた混餌投与による拡張1世代試験 (OECD TG 443、GLP 準拠) において、F0 および F1 親動物に一般毒性影響（体重増加抑制、小葉中心性肝細胞肥大および単細胞壊死、門脈周囲の空胞化など肝臓影響）がみられる 10 mg/kg/day の用量まで親の繁殖能への有害影響はみられていない。また、10 mg/kg/day 群から生まれた F1、F2 児動物には体重の低値、赤血球および横隔膜組織のアセチルコリンエステラーゼ (AChE) 活性抑制（生後 4 日の F1 雄児、生後 76 日の F1 雌児）がみられ、末梢組織における AChE 抑制について SCCS は有害影響と判断している (SCCS (2017)、CLH Report (2017))。 (3) 妊娠 6~20 日（器官形成期）のラットに強制経口投与した催奇形性試験 (OECD TG 414、GLP 準拠) において、母動物毒性が明らかな 45 mg/kg/day まで、発生影響として胎児体重の低下、骨化遅延、内臓および骨格の変異がみられたが、胎児に死亡や奇形発生の増加はみられなかった (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)、CLP Report (2017))。</p>
LOAEL(動物/オス、F0/P)	200 mg/kg BW 動物: その他: 犬、動物の性別: オス
NOAEL(動物/オス、F0/P)	< 50 mg/kg BW 動物: ラット、動物の性別: オス、ガイドライン: OECD ガイドライン 415 [一世代生殖毒性試験 (2017 年 10 月 9 日以前)]
NOAEL(動物/メス、F0/P)	50 mg/kg BW 動物: ラット、動物の性別: メス、ガイドライン: OECD ガイドライン 415 [一世代生殖毒性試験 (2017 年 10 月 9 日以前)]

ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)

生殖毒性	データ不足のため分類できない。
------	-----------------

サリチル酸ヘキシリル (6259-76-3)

生殖毒性	データ不足のため分類できない。なお、ECHA 登録情報に本物質の類縁化合物として、サリチル酸シクロヘキシリル (CAS 番号: 25485-88-5) の発生毒性データがあり、妊娠ラットの器官形成期 (妊娠 6~15 日) に最大 360 mg/kg/day を強制経口投与したが、母動物、胎児への有害影響はみられなかったとの結果を掲載している (ECHA (Access on January 2016))。
------	---

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

アリルカプロエート (123-68-2)	
生殖毒性	データ不足のため分類できない。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
生殖毒性	マウスに混餌投与した3世代試験では各世代ともに生殖発生毒性は認められなかったが、ラットに混餌投与した2世代試験で、F0において一般毒性がみられない用量で同腹児数の減少が認められた(SIDS (2002))。妊娠マウス及びラットへの経口投与では発生毒性は生じないが、母動物に顕著な毒性(死亡率10%以上)がみられる用量で胎児に骨化遅延がみられたに過ぎない(SIDS (2002))。したがって、本物質は発生毒性を生じないと考えられた。生殖能に対する影響については、ラットで認められたもののマウスでは認められていないことから、区分2とした。なお、ラットの2世代試験のデータについて、旧分類ではList 3の情報源を基にデータを採用し分類に用いたが、今回の分類にはSIDSのデータを採用し、最新ガイドラインにより分類したため分類結果が変わった。また、旧分類の分類根拠とされている無眼球症、小眼球症についての記載は、IARC 40 (1986)において否定されているため削除した。
リモネン (5989-27-5)	
生殖毒性	ラットおよびマウスを用いた催奇形性試験において、母獣に一般毒性がみられる用量で胎児の臓器(胸腺、脾臓、卵巣)重量の減少、骨格変異(腰肋、肋骨の癒合)、化骨遅延がみられた(CICADs (No.5, 1998))が程度が不明であり、親の生殖能力に対する影響の情報がないため分類できない。
NOAEL(動物/メス、F0/P)	600 mg/kg BW 動物: ネズミ、動物の性別: メス、ガイドライン: その他:
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
生殖毒性	妊娠ラットに本物質を妊娠7~17日まで強制経口投与した発生毒性試験において、母動物には低用量(96 mg/kg/day)から体重増加抑制、摂餌量減少、流涎など影響がみられたが、胎児における発生影響は特にみられていない(NTP TOX 92 (2016))。しかし、生殖能・性機能への影響に関する情報がなく、本項はデータ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 臓器の障害のおそれ(中枢神経系、全身毒性)
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトの吸入ばく露により眼及び鼻への刺激症状が報告されている(PATTY (6th, 2012))。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒(筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中等度の中毒(視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害)、さらに重度の中毒症状(嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など)を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている(PATTY (6th, 2012))。ヒトに加えて実験動物でも中枢神経系の抑制症状がみられている(SIDS (2005))。以上より、区分3(気道刺激性、麻醉作用)とした。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	SIDS (2002)、EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第6巻 (2005) の記述から、本物質はヒトで急性中毒として中枢神経抑制（嗜眠、昏睡、呼吸抑制など）、消化管への刺激性（吐き気、嘔吐）、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。また、吸入ばく露により鼻、喉への刺激性（咳、咽頭痛）を示す (EHC 103 (1990)、環境省リスク評価第6巻 (2005)) ことから、気道刺激性を有する。以上より、区分1（中枢神経系、全身毒性）、及び区分3（気道刺激性）に分類した。なお、旧分類では区分1（腎臓）を採用したが、根拠となるデータはList 3の情報源からのヒトの症例報告によるもので、原著は古く、List 1及び2の複数の情報源では採用されておらず、標的臓器としての腎臓は不適切と判断し削除した。
プロピレングリコール (57-55-6)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>【分類根拠】 (1) ~ (3) のヒトの知見より、中枢神経系及び血液系が標的臓器と考えられる。また、(3)、(4) の実験動物のデータからも神経系及び血液系が標的臓器と考えられる。また (3) より麻酔作用がみられている。以上より、区分1（中枢神経系、血液系）、区分3（麻酔作用）とした。【根拠データ】 (1) 2歳の男児が約 1.75~2.25%の本物質を含むヘアジェルを誤って約 3 オンス摂取した後に中枢神経抑制及び代謝性アシドーシスを生じた。男児は嘔吐を繰り返し、嗜眠になり、強い痛みにしか反応しなくなった (ATSDR addendum (2008)、SIDS (2004))。 (2) 経口摂取による急性中毒症状は眠気から知覚麻痺、意識喪失、昏睡に至る。他の徵候としては、血清の高浸透圧、乳酸アシドーシス、及び低血糖である (IPCS PIM 433 (Accessed Oct. 2018))。 (3) 高用量の経口摂取による急性毒性症状は、中枢神経抑制と麻酔作用である。ラット及びマウスでは運動失調、眼瞼下垂、自発運動減少、体幹及び四肢の緊張、及び呼吸の減少である (ATSDR addendum (2008))。 (4) ラットの単回経口投与試験では、区分2範囲の 730 mg/kg 以上で赤血球数・ヘモグロビン・ヘマトクリット値の減少、及び網状赤血球・血漿ヘモグロビン・浸透圧の増加がみられた。また、赤血球の電顕観察で表面粗造、膜の破壊もみられた (SIDS (2004)、ATSDR addendum (2008))。</p>
3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオンアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	<p>【分類根拠】 (1) より気道刺激性、(2) より麻酔作用を採用し、区分3（麻酔作用、気道刺激性）とした。新しい情報源の利用により、標的臓器を追加した。【根拠データ】 (1) マウスに本物質を1~5分間吸入ばく露後に30秒間の呼吸数を測定した結果、濃度依存的な呼吸数減少（最大 41.2%）が認められ、本物質の呼吸器刺激作用による影響と考えられている (SCCS (2016))。 (2) ラットの単回経口投与試験で、681 mg/kg 以上の用量で嗜眠（全身抑うつ作用）、呼吸困難がみられた。その他の症状として、全身状態悪化、被毛粗剛、異常歩行などの報告がある (NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)、SCCS (2016))。【参考データ等】 (3) ラットの単回経皮ばく露試験の 2,000 mg/kg 群で、局所刺激症状以外に呼吸困難、興奮、抑うつ（アパシー）、よろめき歩行、被毛粗剛、流涙、全身状態悪化がみられた (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018))。</p>
ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。なお、ECHA 情報として、経口経路及び経皮経路でのデータはあるが、結果のみの情報であり、区分を付けられる毒性所見も認められない (ECHA (Access on January 2016))。
アリルカプロエート (123-68-2)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質 4 g 又は 80 g を摂取した女性 2 人に上部胃痙攣、吐気、嘔吐、疲労感、神経症状が見られたとの記述 (SIDS (2002)、ACGIH (7th, 2001))、ヒトが経口摂取すると腹痛や錯乱、眩暈、吐気、嘔吐を生じるとの記述 (環境省リスク評価第 6 卷 (2008)) から、区分 1 (神経系) に分類した。
リモネン (5989-27-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒト 8 人による 2 時間吸入試験(10, 225, 450 mg/m ³)において、高濃度群で軽微な肺活量の減退が見られたのみで中枢神経系に関連する異常は見られなかった (CICAD (No.5, 1998))。ボランティアによる経口試験(20g)において下痢、痛みを伴う収縮(painful constriction)およびタンパク尿が認められたが、肝臓(総タンパク、ビリルビン、コレステロール、酵素群)に異常は見られなかった (CICAD (No.5, 1998))。ラットの強制経口試験(0-1200mg/kg bw)において、肝トリグリセリド、microsomal proteins、肝チトクローム b5 および薬物代謝酵素類に異常は見られなかった(JECFA (1993))。以上の結果、ヒトおよび動物において重大な変化が認められなかったことから経口、吸入経路では区分外相当であるが、経皮暴露のデータはなく分類できないとした。ラット(Sprague-Dawley)の単回投与試験(雌雄, 0-409mg/kg)にて、409mg/kg 群で硝子滴が 10 を示した(対象群; 3)が、本物質と α2u グロブリンの関連性が記述されていることから、種および性依存性と判断し分類根拠には採用しなかった。
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 (肝臓) 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (中枢神経系、血液系)
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壞死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する (DFGOT vol.12 (1999)) との記載に基づき区分 1 (肝臓) とした。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国 FDA は 3 種類の治療薬を承認しているとの記述がある (HSDB (Access on June 2013)) ことから、区分 2 (中枢神経系) とした。なお、動物実験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットの 90 日間反復経口投与試験において、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている (SIDS (2005)、PATTY (6th, 2012))。
NOAEL (亜慢性、経口、動物/オス、90 日)	< 9700 mg/kg BW 動物 : マウス、動物の性別 : 男性、ガイドライン : EPA OPPTS 870.3100 (げっ歯類における 90 日間の経口毒性)

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
NOAEL (亜慢性、経口、動物/メス、90 日)	> 9400 mg/kg BW 動物：マウス、動物の性別：雌、ガイドライン：EPA OPPTS 870.3100 (げっ歯類における 90 日間の経口毒性)
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットに本物質の蒸気を 4 ヶ月間吸入ばく露試験で、100 mg/m ³ (ガイドンス値換算濃度: 0.067 mg/L/6 hr) 以上で白血球数の減少が見られ、500 mg/m ³ (ガイドンス値換算濃度: 0.33 mg/L/6 hr) 群では呼吸器（肺、気管支）、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた (EHC 103 (1990)) との記述から、標的臓器は血液系、呼吸器、肝臓、脾臓であると判断し、血液は区分 1、呼吸器、肝臓、脾臓は区分 2とした。なお、吸入又は経口経路による動物試験において、区分 2 のガイドンス値を上回る用量で、麻酔作用、血液系への影響がみられている (SIDS (2002)、PATTY (6th, 2012))。
ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
LOAEL (経口、ラット、90 日)	25 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日間経口毒性試験)
NOAEL (経口、ラット、90 日)	> 225 mg/kg BW/日 動物：ラット、ガイドライン：OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日経口毒性)

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

プロピレンジリコール (57-55-6)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>【分類根拠】 (1)、(2) のヒトのデータより中枢神経系が本物質の標的と考えられ、区分 1 (中枢神経系) を採用した。また、(3) の実験動物のデータより、吸入経路での影響は区分 1 の用量で呼吸器への影響がみられたことから、区分 1 (呼吸器) とした。なお (3) のデータにおける試験濃度の 160 mg/m³ (51.4 ppm) は飽和蒸気圧濃度 (108.9 ppm) の 90% より低く、ミストを含まない蒸気と考えられることから、蒸気の基準を適用した。【根拠データ】 (1) 15 カ月の若年者が内服治療の溶媒として本物質を繰り返し大量に摂取した結果、低血糖と中枢神経抑制による有害症状を生じた。服薬中止により症状は急速に改善した (PATTY (6th, 2012))。 (2) 本物質を含む治療薬を 1 年以上内服した後に 11 歳の少年が大発作を起こした。この他、本物質に溶解したフェニトインを内服した患者で中枢抑制症状の報告がある (IPCS PIM 443 (Accessed Oct. 2018))。 (3) ラットに本物質を 13 週間吸入ばく露 (160~2,200 mg/m³、6 時間/日、5 日/週) した試験では、区分 1 の範囲内である 160 mg/m³ (ガイダンス値換算 : 0.12 mg/L) 以上で鼻腔の出血、眼の分泌物の増加、1,000 mg/m³ 以上で、鼻腔に杯細胞数とムチンの増加を伴う呼吸上皮の肥厚がみられた (環境省リスク評価第 6 卷 : 暫定的有害性評価シート (2008))。【参考データ等】 (4) ラットに 15 週間混餌投与した試験では、50,000 ppm (約 2,500 mg/kg/day) で、有害性影響はみられなかった (SIDS (2004))。 (5) ラットに 140 日間飲水投与した試験では、25% 以上の濃度では飲水量減少による飢餓と脱水により全例が死亡した。NOAEL は 10% (13,200 mg/kg/day) と報告されている (SIDS (2004))。 (6) ラットに 104 週間混餌投与した試験では、50,000 ppm (雄 : 1,700 mg/kg/day、雌 : 2,100 mg/kg/day) 有害性影響はみられなかった (SIDS (2004))。 (7) イヌに 104 週間混餌投与した試験では、2,000 mg/kg/day では影響はみられず、5,000 mg/kg/day で血液系への影響 (赤血球数・ヘモグロビンの減少など) がみられた (SIDS (2004))。 (8) ネコに 2~3 カ月間混餌投与した試験で、443 mg/kg/day 以上で血液系への影響 (ハイント小体の増加、肝臓のヘモジデリン沈着 (二次的変化)) がみられた (SIDS (2004))。</p>
NOAEL (亜慢性、経口、動物/オス、90 日)	443 mg/kg BW 動物:猫、動物のセックス:男性

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオナルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	<p>【分類根拠】 (1) ~ (4) のデータより、各種雄動物の生殖器および精子形成への有害影響が認められている。有害性区分として、(2)、(3) の短期(2週間) 試験からは日数換算の結果、区分 1 での影響となるが、ガイダンスに従いラット 90 日間経口投与試験 (OECD TG408, GLP) の (1) の結果を優先し、区分 2 (生殖器 (男性)) とした。この他、標的臓器として (1) から「副腎」、(4) から「肝臓」が想定されるが、(1) の副腎の所見は雌ラットのみの影響でイヌではみられないこと、(4) の肝臓所見は毒性変化ではなく適応性の変化と考えられること、かつ、より 3 カ月間経口投与試験 (OECD TG 409, GLP) の (5) のデータで肝臓影響を疑う明瞭な所見がないことから、標的臓器の対象から除外した。【根拠データ】 (1) 雌雄ラットの 90 日間強制経口投与試験 (OECD TG408, GLP) において、25 mg/kg/day 以上 (区分 2 の範囲) で副腎への影響 (雌：相対重量増加・束状帶の肥大)、および 50 mg/kg/day (区分 2 の範囲) で、精巣・精巣上体への影響 (精巣の萎縮、精巣上体の精液瘤) がみられた。 (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)、CLP Report (2017))。【参考データ等】 (2) 雄ラットおよび雄マウスの 14 日間経口投与試験において、50 mg/kg/day (90 日換算値 : 7.8 mg/kg/day、区分 1 範囲) で、ラットに精巣萎縮、マウスに異常精子の頻度増加がみられた (SCCS (2016))。 (3) 雄ウサギの 15 日間強制経口投与試験において、30 mg/kg/day (90 日換算値 : 5 mg/kg/day、区分 1 の範囲) で、1/5 例に精巣精細管にび漫性変性、精巣上体に炎症と乏精子症 (いずれも中等度)、100 mg/kg/day (90 日換算値 : 16.7 mg/kg/day、区分 2 の範囲) で、1/5 例に精細管のび漫性変性、精巣上体の萎縮、無精子症 (いずれも重度) が認められた (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)、CLP Report (2017))。 (4) 雄イヌの 2 週間強制経口投与試験において、200 mg/kg/day (90 日換算値 : 30.8 mg/kg/day、区分 2 の範囲) で、4 例全例に嘔吐・軟便・下痢を伴う体重增加抑制または体重減少、肝臓重量増加・小葉中心性肝細胞肥大、1/4 例に精巣に精細管のび漫性変性とライデッヒ細胞の過形成、精巣上体に上皮の空胞化と無精子症が認められた (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018)、CLP Report (2017))。 (5) 雌雄イヌを用いた 3 カ月間経口投与試験 (OECD TG 409, GLP) では、44.6 mg/kg/day (区分 2 の範囲) までの用量では雌雄ともに影響は認められず、雌のみ 200 mg/kg/day の 90 日間投与群を追加したが、雌には 200 mg/kg/day (区分 2 超) の用量でも有害影響はみられなかった (SCCS (2016)、NICNAS IMAP (Accessed Dec. 2018))。</p>
NOAEL (経口、ラット、90 日)	25 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 408 (げっ歯類における反復投与 90 日経口毒性)
NOAEL (経皮、ラット/ウサギ、90 日)	1000 mg/kg BW 動物 : ラット、動物の性別 : 雄
ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物については、ラットを用いた経皮適用による 90 日間反復投与毒性試験において、区分 2 相当の 125 mg/kg/day で適用部皮膚及び消化管の刺激、血糖減少、血中尿素窒素及び血清アルカリ性ホスファターゼ活性増加の報告がある (HPVIS (Access on October 2016))。以上のように、区分 2 相当の用量で局所刺激性に起因した所見のほか、血液生化学的検査項目の変動がみられているが、分類根拠とするには十分でなく、その他の経路の情報がないことから分類できないとした。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ドデカン二酸エチレン (54982-83-1)	
NOAEL (経口、ラット、90 日)	1000 mg/kg BW 動物: ラット、ガイドライン: OECD ガイドライン 407 (げっ歯類における反復投与 28 日間経口毒性)
サリチル酸ヘキシリ (6259-76-3)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため分類できない。
NOAEL (経口、ラット、90 日)	46.9 mg/kg BW 動物 : ネズミ
アリルカプロエート (123-68-2)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため分類できない。なお、ラットを用いた 1 年間混餌試験で 125 mg/kg/day (餌からの蒸散を考慮して 86 mg/kg/day と推定) で有害影響はみられなかったという報告のほか、ラットを用いた短期試験 (おそらく経口投与)において 50 mg/kg/day で肝毒性はみられないとの報告がある (JECFA TRS 868 (1997))。
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトについての報告はなかった。マウスに 4 週間経皮投与した試験において、区分 2 のガイダンス値内の投与量 (45 mg/kg/day (90 日換算値)) で肺のうつ血、腫大、肺胞上皮細胞の壊死、変性が認められた (SIDS (2002))。また、ラットに混餌投与 (投与期間 : 雄は交配前 5 週間及び交配期間、雌はさらに F1 児の離乳まで) した繁殖試験において、区分 2 のガイダンス値内の投与量 (100 mg/kg/day) で肝臓の組織変化 (小葉中心性肝細胞肥大、好酸性化、胆管増生) 及び甲状腺機能亢進が見られた (SIDS (2002) 、環境省リスク評価第 6 卷 (2008)) との記述がある。これらの所見のうち、甲状腺機能亢進は病理組織像の詳細及び程度が明らかでなく、甲状腺を標的臓器とするには証拠が十分ではないと判断した。以上の結果、区分 2 (肺、肝臓) とした。
LOAEL (経口、ラット、90 日)	100 mg/kg BW 動物 : ラット、動物の性別 : 雄
NOAEL (経口、ラット、90 日)	25 mg/kg BW 動物 : ラット、動物の性別 : 雄
リモネン (5989-27-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ラットによる 16 日間強制経口試験(0-6600mg/kg (90 日換算:73-1173mg/kg))において 1650mg/kg 群およびそれ以下の投与群において毒性症状および本物質に起因する組織学的变化は認められなかった(JECFA (1993))。ラットによる 30 日間経口試験(0-2770mg/kg (90 日補正: 92-923mg/kg))においては、雄の腎臓質の外側部位に顆粒円柱が認められた以外に臓器重量、尿、血液および生化学検査において变化は認められなかった(JECFA (1993))。以上の結果から経口経路では区分外相当であるが、経皮、吸入暴露のデータはなく分類できないとした。なお、ラット雄で見られた所見は、α2u グロブリンの影響が示唆されるため分類根拠には採用しなかった。

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトについての情報はない。実験動物については、ラット、マウスを用いた3ヶ月間（5日/週）経皮投与試験において、適用部位である皮膚の所見以外には、ラットでは区分2に相当する用量である6.25% (31.25 mg/kg/day) (90日換算値: 22 mg/kg/day) でALT活性の減少のみがみられ、マウスでは区分2に相当する用量である6.25% (125 mg/kg/day) (90日換算値: 89 mg/kg/day) で体重増加抑制、肝臓重量増加がみられている(NTP TOX92 (2016))。以上のように区分2相当の用量では根拠とする所見はみられていない。したがって、分類できないとした。
-----------------	--

誤えん有害性 : 分類できない

エタノール; エチルアルコール (64-17-5)

誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
--------	-----------------

イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)

誤えん有害性	データ不足のため分類できない。旧分類のデータが確認できることと、分類ガイドンスの変更により分類を見直した。
--------	---

プロピレンジリコール (57-55-6)

誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
--------	-----------------------

3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオンアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)

誤えん有害性	【分類根拠】データ不足のため分類できない。
--------	-----------------------

ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)

誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
--------	-----------------

サリチル酸ヘキシリル (6259-76-3)

誤えん有害性	データ不足のため分類できない。なお、GESTIS (Access on October 2015) に収載された数値データ (粘性率: 10 mPas (25 °C)、密度: 1.04 g/cm3 (25 °C)) より、動粘性率は 9.62 mm2/sec (25 °C) と算出される。
動粘性率	9.634 mm ² /s

アリルカプロエート (123-68-2)

誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
--------	-----------------

ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)

誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
--------	-----------------

リモネン (5989-27-5)

誤えん有害性	データなし。
--------	--------

テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)

誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
--------	-----------------

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般	: 水生生物に有害、長期継続的影響によって水生生物に有害。
水生環境有害性 短期（急性）	: 水生生物に毒性
水生環境有害性 長期（慢性）	: 長期継続的影響によって水生生物に有害
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類（クロレラ）の 96 時間 EC50 = 1000 mg/L (SIDS, 2005)、甲殻類（オオミジンコ）の 48 時間 EC50 = 5463 mg/L (ECETOC TR 91 2003)、魚類（ニジマス）の 96 時間 LC50 = 11200 ppm (SIDS, 2005) より、藻類、甲殻類及び魚類において 100 mg/L で急性毒性が報告されていないことから、区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BOD による分解度 : 89% (既存点検, 1993))、甲殻類（ニセネコゼミジンコ属の一種）の 10 日間 NOEC = 9.6 mg/L (SIDS, 2005) であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、藻類、魚類ともに急性毒性が区分外相当であり、難水溶性ではない (miscible, ICSC, 2000) ことから、区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	14.2 g/l 試験生物（種）: Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	5463 mg/l
ErC50 藻類	1000 mg/l
NOEC (慢性)	9.6 mg/l 試験生物（種）: Daphnia magna 期間: 「9 日」
NOEC 甲殻類 慢性	9.6 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.32 出典: ICSC
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
水生環境有害性 短期（急性）	藻類 (Pseudokirchneriella subcapitata) 72 時間 ErC50 > 1000 mg/L、甲殻類（オオミジンコ）48 時間 EC50 > 1000 mg/L、魚類（メダカ）96 時間 LC50 > 100 mg/L (いずれも環境庁生態影響試験, 1997) であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期（慢性）	慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BOD による分解度 : 86% (既存点検, 1993))、甲殻類（オオミジンコ）の 21 日間 NOEC > 100 mg/L (環境庁生態影響試験 (1997)、環境省リスク評価 (2008)) であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、急性毒性が区分外であり、難水溶性ではない (In water, infinitely soluble at 25 °C, HSDB, 2013) ことから区分外となる。以上の結果から、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	10000 mg/l 試験生物（種）: Pimephales promelas
LC50 - 魚 [2]	9640 mg/l 試験生物（種）: Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	3025 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典: ICSC

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
LC50 - 魚 [1]	7.1 mg/l 試験生物 (種) : Danio rerio (旧称 : Brachydanio rerio)
EC50 - 甲殻類 [1]	7.2 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 - 甲殻類 [2]	7.4 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	27 mg/l 試験生物 (種) : Desmodesmus subspicatus (旧称 : Scenedesmus subspicatus)
EC50 72h - 藻類 [2]	27.7 mg/l 試験生物 (種) : Desmodesmus subspicatus (旧称 : Scenedesmus subspicatus)
NOEC (慢性)	0.27 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna 期間 : 「21 日」
NOEC 魚 慢性	0.14 mg/l 試験生物 (種) : Oncorhynchus mykiss (旧名 : Salmo gairdneri) 期間 : 「28 日」
プロピレングリコール (57-55-6)	
水生環境有害性 短期 (急性)	藻類 (ムレミカヅキモ) 72 時間 EC50 (生長速度) >1000 mg/L、甲殻類 (オオミジンコ) 48 時間 EC50(遊泳阻害) >1000 mg/L、魚類 (メダカ) 96 時間 LC50 >100 mg/L (ともに環境省生態影響試験: 2018) であることから、区分外とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	急速分解性があり(良分解性、BOD による平均分解度: 90%(化審法 DB: 1991))、藻類 (ムレミカヅキモ) 72 時間 NOEC (生長速度) = 1000 mg/L、甲殻類(オオミジンコ)の 21 日間 NOEC(繁殖阻害)= 1000 mg/L(ともに環境省生態影響試験: 2018) であることから、区分外とした。
LC50 - 魚 [1]	51400 mg/l 試験生物(種): ピメファーレ・プロメラ
LC50 - 魚 [2]	51600 mg/l 試験生物(種): オンコリンコス・マイキス(前の名前: サルモ・ゲレネリ)
EC50 72h - 藻類 [1]	19300 mg/l 試験生物(種): スケルトンコスタタム
EC50 72h - 藻類 [2]	24200 mg/l 試験生物(種): シュードキルヒネリエラ小ペタ(前名: ラフィドセリス首切り、セレナトラムカプリコルヌタム)
EC50 96h - 藻類 [1]	19100 mg/l 試験生物(種): スケルトンコスタタム
EC50 96h - 藻類 [2]	19000 mg/l 試験生物(種): シュードキルヒネリエラ小ペタ(前名: ラフィドセリス首切り、セレナトラムカプリコルヌタム)
NOEC 甲殻類 慢性	1000 mg/l
NOEC 藻類 慢性	1000 mg/l
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.085 ソース: ECHA
3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオンアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)	
水生環境有害性 短期 (急性)	データなし
水生環境有害性 長期 (慢性)	データなし
LC50 - 魚 [1]	2.04 mg/l 試験生物 (種) : ダニオ・レリオ (旧名 : ゼブラフィッシュ)
LC50 - 魚 [2]	2.65 mg/l 試験生物 (種) : ダニオ・レリオ (旧名 : ゼブラフィッシュ)
EC50 - 甲殻類 [1]	9.84 mg/l 試験生物 (種) : オオミジンコ

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオノンアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)

EC50 72h - 藻類 [1]	約 32.5 mg/l 試験生物（種）：Desmodesmus subspicatus（旧名：Scenedesmus subspicatus）
EC50 72h - 藻類 [2]	16.5 mg/l 試験生物（種）：Desmodesmus subspicatus（旧名：Scenedesmus subspicatus）
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.2 出典：ECHA 登録物質

ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)

水生環境有害性 短期（急性）	データなし
水生環境有害性 長期（慢性）	データなし
LC50 - 魚 [1]	0.169 mg/l 出典：EPI SUITE
EC50 96h - 藻類 [1]	0.761 mg/l 出典：EPI SUITE
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.82 出典：EPI SUITE

ドデカン二酸エチレン (54982-83-1)

LC50 - 魚 [1]	0.88 mg/l 試験生物（種）：Oncorhynchus mykiss（旧名：Salmo gairdneri）
EC50 72h - 藻類 [1]	17 mg/l 試験生物（種）：Pseudokirchneriella subcapitata（旧名：Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum）
EC50 72h - 藻類 [2]	1.9 mg/l 試験生物（種）：Pseudokirchneriella subcapitata（旧名：Raphidocelis subcapitata、Selenastrum capricornutum）
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	3.65 出典：ECHA

サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)

水生環境有害性 短期（急性）	データなし
水生環境有害性 長期（慢性）	データなし
LC50 - 魚 [1]	0.191 mg/l 出典：生態学的構造活動関係
EC50 - 甲殻類 [1]	0.357 mg/l 試験生物（種）：オオミジンコ
EC50 72h - 藻類 [1]	0.61 mg/l 試験生物（種）：Desmodesmus subspicatus（旧名：Scenedesmus subspicatus）
EC50 72h - 藻類 [2]	0.28 mg/l 試験生物（種）：Desmodesmus subspicatus（旧名：Scenedesmus subspicatus）
EC50 96h - 藻類 [1]	0.229 mg/l 出典：生態学的構造活動関係
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.06 出典：定量的構造活性相関

アリルカプロエート (123-68-2)

水生環境有害性 短期（急性）	データなし
水生環境有害性 長期（慢性）	データなし
LC50 - 魚 [1]	0.117 mg/l 試験生物（種）：ダニオ・レリオ（旧名：ゼブラフィッシュ）
EC50 - 甲殻類 [1]	2 mg/l 試験生物（種）：オオミジンコ

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

アリルカプロエート (123-68-2)	
EC50 72h - 藻類 [1]	> 4.6 mg/l 試験生物 (種) : Desmodesmus subspicatus (旧名 : Scenedesmus subspicatus)
EC50 72h - 藻類 [2]	0.778 mg/l 試験生物 (種) : Desmodesmus subspicatus (旧名 : Scenedesmus subspicatus)
EC50 96h - 藻類 [1]	0.46 mg/l 出典 : ECOSAR
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	3.191 出典 : ECHA
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
水生環境有害性 短期 (急性)	甲殻類 (オオミジンコ) による 48 時間 EC50 = 0.84 mg/L (環境庁生態影響試験, 1999; 環境省リスク評価第 6 卷, 2008) であることから、区分 1 とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	急速分解性がなく (BOD による分解度 : 4.5% (既存点検, 1979))、魚類 (メダカ) の ELS NOEC = 0.053 mg/L (環境省生態影響試験, 2007) であることから、区分 1 とした。
LC50 - 魚 [1]	> 0.57 mg/l 試験生物 (種) : ダニオ・レリオ (旧名 : ゼブラフィッシュ)
EC50 - 甲殻類 [1]	0.48 mg/l 試験生物 (種) : オオミジンコ
EC50 72h - 藻類 [1]	> 0.4 mg/l 試験生物 (種) : Desmodesmus subspicatus (旧名 : Scenedesmus subspicatus)
LOEC (慢性)	1 mg/l 試験生物 (種) : オオミジンコ 期間: '21 日'
NOEC (慢性)	0.023 mg/l 試験生物 (種) : オオミジンコ 期間: '21 日'
NOEC 魚 慢性	0.053 mg/l 試験生物 (種) : Oryzias latipes 期間: '42 日'
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.1 出典 : HSDB
リモネン (5989-27-5)	
水生環境有害性 短期 (急性)	甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC50 = 0.421 mg/L (NICNAS, 2002) から、区分 1 とした。
水生環境有害性 長期 (慢性)	急性毒性区分 1 であり、急速分解性でない (BIOWIN) ことから、区分 1 とした。
LC50 - 魚 [1]	720 µg/l 試験生物 (種) : Pimephales promelas
LC50 - 魚 [2]	702 µg/l 試験生物 (種) : Pimephales promelas
EC50 - 甲殻類 [1]	0.36 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 - 甲殻類 [2]	0.51 mg/l 試験生物 (種) : Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	約 8 mg/l 試験生物 (種) : Desmodesmus subspicatus (旧称 : Scenedesmus subspicatus)
EC50 72h - 藻類 [2]	0.214 mg/l 試験生物 (種) : Raphidocelis subcapitata (旧名 : Pseudokirchneriella subcapitata, Selenastrum capricornutum)
NOEC (慢性)	0.115 mg/l 試験生物 (種) : その他 : 淡水無脊椎動物の場合、種にはしばしば Daphniamagna または Daphniapulex が含まれます。期間 : 「16 日」
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.38 出典: ECHA 登録物質

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
水生環境有害性 短期（急性）	データなし
水生環境有害性 長期（慢性）	データなし
LC50 - 魚 [1]	0.258 mg/l 出典: ECOSAR
EC50 96h - 藻類 [1]	0.487 mg/l 出典: ECOSAR
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.18 出典: EPISUITE

残留性・分解性

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener	
残留性・分解性	急速分解性でない
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
残留性・分解性	急速分解性
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
残留性・分解性	急速分解性
ラウレス硫酸ナトリウム (68891-38-3)	
残留性・分解性	急速分解性でない
プロピレングリコール (57-55-6)	
残留性・分解性	急速分解性
3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオンアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)	
残留性・分解性	急速分解性でない
ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)	
残留性・分解性	急速分解性でない
ドデカン二酸エチレン (54982-83-1)	
残留性・分解性	急速分解性でない
サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)	
残留性・分解性	急速分解性でない
アリルカプロエート (123-68-2)	
残留性・分解性	急速分解性でない
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
残留性・分解性	急速分解性でない
リモネン (5989-27-5)	
残留性・分解性	急速分解性でない
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
残留性・分解性	急速分解性でない

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

生体蓄積性

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener	
生体蓄積性	データなし
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.32 出典 : ICSC
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典 : ICSC
プロピレンギリコール (57-55-6)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.085 ソース: ECHA
3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオンアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.2 出典 : ECHA 登録物質
ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.82 出典 : EPI SUITE
ドデカン二酸エチレン (54982-83-1)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	3.65 出典: ECHA
サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.06 出典: 定量的構造活性相関
アリルカプロエート (123-68-2)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	3.191 出典 : ECHA
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.1 出典 : HSDB
リモネン (5989-27-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.38 出典: ECHA 登録物質
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.18 出典: EPISUITE

土壤中の移動性

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener	
土壤中の移動性	データなし
エタノール; エチルアルコール (64-17-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	-0.32 出典 : ICSC
イソプロピルアルコール臭 (67-63-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.05 出典 : ICSC
プロピレンギリコール (57-55-6)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	0.085 ソース: ECHA

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

3-(m-tert-ブチルフェニル)-2-メチルプロピオノアルデヒド(m-BMHCA) (80-54-6)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.2 出典 : ECHA 登録物質
ヘキシリシンナムアルデヒド (101-86-0)	
土壤中の移動性	2301 出典 : EPI SUITE
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.82 出典 : EPI SUITE
ドデカン二酸エチレン (54982-83-1)	
土壤中の移動性	1343 出典: EPISUITE
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	3.65 出典: ECHA
サリチル酸ヘキシル (6259-76-3)	
土壤中の移動性	6686 出典: 定量的構造活性相関
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.06 出典: 定量的構造活性相関
アリルカプロエート (123-68-2)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	3.191 出典 : ECHA
ブチルヒドロキシトルエン (128-37-0)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.1 出典 : HSDB
リモネン (5989-27-5)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	4.38 出典: ECHA 登録物質
テトラメチルアセチルオクタヒドロナフタレン (54464-57-2)	
n-オクタノール/水分配係数 (Log Pow)	5.18 出典: EPISUITE

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : 分類できない

13. 廃棄上の注意

廃棄方法 : 許可を得た収集業者の分別回収に準拠して内容物／容器を廃棄する。

14. 輸送上の注意

UN RTDG に準ずる

国際規制

国連勧告(UN RTDG)

国連番号(UN RTDG) : 非該当
正式品名 (UN RTDG) : 非該当
容器等級(UN RTDG) : 非該当
輸送危険物分類 (UN RTDG) : 非該当

MARPOL 73/78 附属書II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

国内規制

その他の情報 : 補足情報なし

15. 適用法令

国内法令

化審法	: 優先評価化学物質（法第2条第5項）
労働安全衛生法	: 作業環境評価基準（法第65条の2第1項） 名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号～第2号別表第9） 危険物・引火性の物（施行令別表第1第4号） 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9） 3-(4-ターシャリーブチルフェニル)-2-メチルプロパノール（政令番号：334の2）(5%未満) エタノール（政令番号：61）(10～20%) プロピルアルコール（政令番号：494）(5%未満) 【改正後 令和6年4月1日以降】 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号～第2号別表第9） 【改正後 令和7年4月1日以降】 名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2第1項、施行令第18条の2第1号、第3号別表第9） 2-ベンジリデンオクタナール(5%未満) d-リモネン(5%未満) 特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者（法第66条第2項、施行令第22条第1項） : 有機化学物質（法第29条1、施行令第4条1） : 指定物質（法第2条第4項、施行令第3条の3） : 指定可燃物、可燃性固体類（法第9条の4、危険物令第1条の12・別表第4） : 挥発性有機化合物（法第2条第4項）（有機溶剤中毒予防規則中の該当物質） 揮発性有機化合物（法第2条第4項）（環境省から都道府県への通達） : 油性混合物（施行規則第2条の2） 有害でない物質（施行令別表第1の2） 有害液体物質（X類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（X類物質）・油性混合物（施行令別表第1第1号イ（81）） 有害液体物質（Y類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（Z類物質）（施行令別表第1） 有害液体物質（X類同等の物質）（環境省告示第148号第1号） : 輸入貿易管理令第4条第1項第2号輸入承認品目「2の2号承認」 輸出貿易管理令別表第1の16の項 輸出貿易管理令別表第2（輸出の承認） : 特定有害廃棄物（法第2条第1項第1号イ、平成30年6月18日省令第12号） 特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法） : 水質基準物質（法第12条の2第2項、施行令第9条の4）
海洋汚染防止法	
外国為替及び外国貿易法	
下水道法	

安全データシート

SMELLIKE ANIMATE - Air Freshener

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

16. その他の情報

免責条項 当該シートに記載されている情報は信頼できる情報をもとにしているが、情報の正確性について明示・暗示を問わずいかなる保証をするものではない。製品の取扱い、使用、保管または廃棄条件は当社の管理外であり、我々の認知するところではないことがある為、製品の取扱い、使用、保管または廃棄によって生じる損失、損害または費用に対する責任は、直接・間接を問わず一切負わない。当該シートは本製品にのみ使用するべきである。本製品がその他の製品の成分として使用される場合は、当該シートに記載されている情報が適用されないことがある。